

「原種フジバカマ」と日本唯一の渡り蝶「アサギマダラ」



原種フジバカマとアサギマダラ

羽の特徴である「浅葱色」(青緑色)をした「まだら模様」が名の由来。アニメ「鬼滅の刃」の人気キャラ・胡蝶しのぶの蝶屋敷で飛びかい、隊服や髪飾りのモチーフになっている。

絶滅危惧種の原種を発見

秋の七草として知られるフジバカマ。私たちが目にするほとんどは園芸種で、原種は群馬県の「絶滅のおそれのある野生生物・植物レッドリスト」に上げられ絶滅の危機にあります。そんな原種フジバカマが、9月中旬から10月下旬ごろまで、一面に咲き誇る花畑が、安中市碓^{たす}東小学校の裏にあります。

珍しい「旅する蝶」の飛来

種フジバカマを柳瀬川の堤防近くで二十数年前に見つけたのが始まり。現在では、2022年度ぐんま緑の県民基金事業として、地域や碓東小学校と連携し「原種フジバカマ育成園」を造り、管理育成に努めています。

「ここに「旅する蝶」アサギマダラが飛来するようになりました」と、松本さんは予想もしなかった出来事に喜びの声を上げます。アサギマダラは、羽を広げると10cm前後にもなる大型の美しい蝶で、20℃前後の快適な気温の場所を求めて移動する国内で唯一の「渡り蝶」です。二千米も移動した事例もあります。

「原種フジバカマ育成園」は、アサギマダラに出会える場所として注目のスポットになっています。

里山の自然体験を子どもたちに23年前から取り組んできたビオ・ガーデン

碓東小学校の校門を入ると、小川が流れ木立が陽射しをやらげらる憩いの緑地帯『ビオ・ガーデン 碓東流水池』があります。山が荒れ、山に入って自然体験をする機会が少なくなつた子どもたちに、身近に自然や生き物と親しみ、里山の風景を楽しんでほしいと、23年前に松本さんが核となり、構想から約2年をかけて造成されました。維持管理のために「いきものふれあいの里」事業推進協議会が結成され、松本さんは顧問を務めています。

小高い丘の上から滑る長い滑り台や小さな滝、井戸水をおくみ上げるポンプなどもある大掛かりな本格的なビオ・ガーデンで、建設にあたっては、市民・企業・行政の三者が協力して地域の環境改善に取り組むグラントワーク方式を導入し、延べ1500人の協力を得て完成しました。

在校生の自慢であり、卒業しても訪れたいくなる思い出の場所。ベンチを置いて地域に開かれた憩いの場所として親しまれています。



陽射しが強くなると、アサギマダラは流水池の木陰でも休憩します。